被災地派遣レポート＜第２３回＞

都市整備局総務部職員課　伊藤　一樹　さん

私は、７月６日から７月１３日までの８日間、福島県第８陣のメンバーとして福島県庁住宅対策本部に派遣されました。

福島市内は被災地から離れているということもあり、お店も営業していて、人通りも多く、いつも通りの街という印象を感じました。しかし、場所によっては地震の影響を受け崩れている建物があったり、車道や歩道が隆起している部分もありました。

私が派遣された住宅対策本部は福島県庁にあり、福島県庁の職員と全国各地の自治体から派遣で来ている職員の方々が現場班、調整班、計画班に分かれて応急仮設住宅建設の業務を行っています。

私は、住宅対策本部応急仮設住宅担当仮設住宅建築班計画チームで契約書等の作成、事務処理の業務に従事しました。応急仮設住宅は、地震直後から整備を進めていましたが、建設に伴う契約事務手続きは後回しになっていました。その後回しになっていた、応急仮設住宅の工事発注手続きと、建設する業者との契約手続きを後追いで行うために契約書等を作成するというのが担当業務でした。

応急仮設住宅は、７月末までに１万４千戸を建設するというのが当初からの予定で、現在着手済戸数は約１万３千５００戸、完成済戸数は約１万戸となっています。建設戸数は残りわずかですが、仮設住宅の入居者からの要望が増えていて、追加で工事を行っているのが現場の状況です。高齢者の入居者が多いため、「手すりを付けてほしい」「スロープをつけてほしい」「段差をなくしてほしい」などの要望が多くあります。その追加工事を行った案件ごとに契約事務が発生するので、事務作業としては今後も増えていくのかなと思います。

今回、大震災で被害を受けた福島県に被災地支援に行き、福島県職員、全国各地から派遣に来ている職員の一人ひとりが１日でも早い復興を願い、連携し、協力しながら業務を行っている中で働くことができ、とても貴重な体験ができました。また東京でも、いつ起こるかわからない大震災にすぐ対応できるよう、あらゆることを想定し、備えていかなければいけないと強く感じました。